

—物の見方、考え方—  
経営に生かす仏教哲学

青木伸雄

## 1. まえがき

縁あって、エレクトロヒートに、物の見方、考え方「経営に生かす仏教哲学」という生意気な原稿を平成18年5月号から寄稿して足掛け4年目をむかえることになった。

数多くの昔の仲間や先輩、後輩達から激励や人生に多少でも役立っていますという電話や手紙をいただく機会に接することが多くなった、有難度いことである。愚生と、日本エレクトロヒートセンターの出会い、前身の日本電熱協会の創立10周年の記念大会で講演させていただいたことにはじまる。

当時の会長は、後の関西電力の社長になられた藤洋作さんであった。

その時の愚生は、「アトミックエナジー」、「バイオテクノロジー」、「コンピュータ」等の関連技術について述べ、世の中を変える三大最先端技術で全ての方々へ研究活用してほしいと話し10年以上たってしまった。その中で「コンピュータ」関連技術の中のIT (Information Technology) 化社会、いわゆる情報技術化社会の到来と予測について再度、振り返ってみると「情報」の重要性が国際社会の一員として活動する場合、全く無視できない時代になったことを痛感する。

それは、絶対に潰れないといわれた大企業が潰れ、銀行も例外でなくなったということである。

個人、企業を問わず、付き合う相手や会社を慎重に選ばなければ被害を受け損害をこうむる時代となったのである。アメリカの格付会社ムーディーズ・インベスターズ社 (MIS) の「CAMEL」分析では、

C…自己資本の適正水準 (Capital Adequacy)

A…資産内容 (Asset Quality)

M…経営の質 (Management)

E…収益性 (Earning)

L…流動性 (Liquidity)

の五つの項目で企業を格付、評価している。したがって、格付で企業の安定性、健全性が評価される時代になったということ認識してほしいということである。ただここで重要なことは、情報にはすべて顕在情報と潜在情報があるということである。

いわゆる表と裏が存在する。「裏には裏がある」、「裏の裏に行く」、「裏へ回る」等々が存在する。そこで実践仏教哲学として「禅」、「密教」、そして「見機而変」の情報としてのとらえ方、生かし方をさぐることにする。

情報を生かすも、殺すも、それはそのとらえ方、いわゆる人間の資質によることに起因するのである。

## 2. 禅を学ぶ

禅とは、大乘仏教で自利、自他を求める修行者、さとりを求めて修行する人いわゆる菩薩 (覺有情ともいう) が修行する六種の基本的な修行項目、「布施」、「持戒」、「忍辱」、「精進」、「禅定」、「智慧」の第五の「禅定」のことである。

それは、定、静慮、思惟修ともいわれ、真正の理を思惟し念慮を安静して散乱せしめざること、心を能く一境に安住せしめて寂靜境に遊ぶこと。心を静めて、一つの対象に集中する宗教的な瞑想、またわその心の状態を禅定という。

一般に禅は、「不立文字、教外別伝」という経験至上主義を標榜するとされているが五世紀に中国に渡来した菩提達磨の禅法を相承し発展、六世紀から七世紀にかけ禅宗として成立したとされている。

「動」の修行として易筋行、すなわち唐手 (空手) の修行があり、「静」の修行として座禅行、いわゆる内観自省の修行による、己れの本見の心性の徹見である。「直指人心、見性成佛」の座禅行は、静座して善悪を問わず、是非に関せず、有無に涉らず、心を安楽自在の境に逍遙せしめることである。

中国では、六祖慧能の南宗禅の系統から臨濟、潯仰、曹洞、雲門、法眼の五派が生まれ、五家と称し、さらに臨濟宗は黄竜、揚岐の二派に分かれて五家七宗になった。日本における本格的な禅は臨濟宗 (明庵栄西)、曹洞宗 (仏法房道元)、黄檗宗 (隠元隆琦) 等があり修行方法は多少異なる。

その代表的な禅法の修行法に、看話禅と黙照禅があるが看話禅とは公案を工夫参究してさとりをひらこうとする禅法で、参禅者に師が課題を示して座禅工夫さ

著者：広島大学生物生産学部講師  
元近畿大学産業理工学部客員教授  
日本禅画家協会名誉理事  
中国少林書画院名誉教授  
法号位 法印 禅画位 奥伝  
青木伸雄  
(野風生)  
雅号 樹泉